

497-534. Yamada, Y. and T. Tanaka (1944) Sci. Pap. Inst. Algol. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. **3**: 47-77, pl. 8. Yendo, K. (1909) Bot. Mag. Tokyo **23**: 117-133.

○牧野標本館雑記 (4) Kōzō HIYAMA: Miscellany from Makino Herbarium (4)

新称植物のつづき オオユキザサ: 羽後国月山産の標本上で命名。3枚あるうちの2枚がヒロハノユキザサ (*Smilacina yesoensis* Fr. & Sav.) で、他の1枚はオオバユキザサ (*S. hondoensis* Ohwi) である。以上の標本は採者も採集年も不明であるが、牧野先生の採集品であるらしい。

ヤクシマグミ: 大隅国屋久島の山頂付近 (田代善太郎, 年月不明) 産の標本上に。これは同名のヤクシマグミ (正宗巖敬, 1929年—*Elaeagnus yakusimensis* Masam.) と同物である。

シマカンアオイ: 奄美大島古見 (1901年4月4日, 田村慶助) 産の標本上に。これはフジノカンアオイ (*Heterotropa Fudsinoi* F. Maek.) である。

スズメギキョウ: 沖縄中頭郡越來 (1922年4月, 記入はないが坂口總一郎氏の採品?) 産の標本上で。*Lobelia liukiuensis* Makino, sp. nov. と学名が併記されている。この名は坂口氏の沖縄植物総目録8頁 (1924年) に載せられているが、これはタチミゾカクシ (山本由松, 1929年—*Lobelia Hancei* Hara) と同じであるから、タチミゾカクシという和名は異名となる。

オニタネツケバナ: 下野国日光千手ヶ原 (1928年) 産の標本上に。これはオクヤマガラシ (*Cardamine torrentis* Nakai) である。

テマリゴマギ: 膳城国三春 (1901年9月4日, 服部保義産) の標本上で、これはヤブデマリ (*Viburnum Thunb. var. tomentosum* Miq.) そのものであった。(牧野標本館)

○イヌヤマモモソウが呉市でとれた (久内清孝) Kiyotake HISAUUCHI: *Gaura parviflora* collected in Kure City as a casual.

呉市の太刀掛優氏から送られた標本を検したところ、それがイヌヤマモモソウ (*Gaura parviflora* Dougl.) であった。恐らく本州の野外で見つかった事実として記録するに足る新事実であろう。わが国には明治時代に渡来していて、当時この和名が小石川植物園で、与えられたもので、そのときの標本が東大のおし葉庫にある。九州では故田代美太郎氏が1915年6月に鹿児島県加治木でとられ、その標本が手元にあるが、その頃はまだ和名はなかったようである。